ポスター
セッション

平成 26 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育
地域日本語教育プログラムＢ

団体名：ＮＰＯ法人日本ボリビア人協会

ボリビアの正式名称は、

ボリビア多民族国　Plurinational State of Bolivia

文化や価値観の多様性を尊重し、人々の融和をはかります。

ー活動の目的

日本ボリビア人協会は、日本とボリビアの文化のちがいを超えて、日本に暮らすボリビア人がネットワークをつくり、日本社会に順応しながら快適な生活が送れるように、さまざまな活動をしています。

ー設立の背景

1995 年 1 月 17 日に起きた阪神淡路大震災では、関西在住の多くのボリビア人も被災しました。そして 9 月 5 日、大阪市内のカトリック協会に 50 名程のボリビア人が集まり、在日ボリビア人が抱えるさまざまな生活課題の相談に対応するための自助組織として ARBK（関西ボリビア人協会）を設立しました。活動拠点を津市に移し、2010 年 4 月 ARBJ（日本ボリビア人協会）に改称、2012 年 1 月 NPO 法人認証。

ー主な活動

在日ボリビア人に対して、日本での日常生活に必要な情報の提供や相談対応、通訳・翻訳によるコミュニケーション支援、日本語教室・スペイン語教室の開催、また日本の方々にボリビアの文化等を知っていただくための交流イベント等を行っています。

＜都道府県別在日ボリビア人数＞

1	愛　　知	1,052
2	三　　重	882
3	神　奈　川	758
4	群　　馬	436
5	栃　　木	358
6	静　　岡	298
7	滋　　賀	247
8	千　　葉	165
9	埼　　玉	162
10	長　　野	154
	その他	821

総数

5,333 人

(2014 年末)

ＮＰＯ法人日本ボリビア人協会
〒514-0027 三重県津市大門 7-15
津センターパレス 3F 津市市民活動センター内
[E-mail] arbjyamada5@gmail.com

ポスター
セッション

平成 26 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育
地域日本語教育プログラムB

教材の概要

事業名称	「生活者としての外国人」のための日本語教育通信講座モデル事業～スペイン語版～			
地域の課題	三重県在住外国人 4 万人弱のうち、県内約 30 の日本語教室に通っているのは約 600 人程度であり、多くが教室に通えていない。散在地域や就労中・子育て中の外国人にとって教育機会を得ることが困難である。従来の「教室」での日本語学習に加え、自宅学習の機会提供が求められている。			
事業目的	「教室」への継続参加が困難な外国人を対象に、自宅学習を中心とした日本語教育の機会を提供する。			
事業内容	**取組1**		**取組2**	
	名称	通信講座「家で学べる生活日本語～スペイン語版～」	名称	通信講座用教材「家で学べる生活日本語～スペイン語版～」の開発
	目的	◎日本語の習得：ひらがな、カタカナ、基礎漢字の習得、生活日本語の習得、 ◎通信教育システムの構築	目的	通信講座「家で学べる生活日本語～スペイン語版～」で使用する専用テキストを開発する。
	内容	◎通信講座（自宅学習） 第1号　ひらがな、あいさつ、小テスト 第2号　カタカナ、日付、時間、値段、小テスト 第3号　買い物時の語彙・表現、小テスト 第4号　娯楽、祝祭日、年中行事、小テスト 第5号　病院・薬局、医療通訳・多言語問診票、 第6号　緊急時・災害時の語彙・表現、避難準備情報、防災メール、小テスト ◎スクーリング 進捗状況の確認、学習者からの質問対応、学習アドバイス等（初回と最終回に確認テスト実施）	内容	教材開発のための学習内容の確認、 通信講座用教材シラバス等について検討。 シラバスの確認、第 1,2 号の内容、 ページデザインについて 第 1～3 号の修正・改善点、修了テスト、等について
	対象	三重県・愛知県在住の外国人（スペイン語圏）	対象	三重県・愛知県在住の外国人（スペイン語圏）
	時間	1 回2～3時間×10回（全22時間）	時間	1 回　5～6時間×3回（全 16 時間）
	人数	21 人	人数	21 人
	取組3			
	名称	シンポジウム「もう一つの日本語教育の可能性～通信講座の成果と課題～」		
	目的	本事業の成果と課題を広く地域日本語教育に携わる者（自治体、国際交流協会、NPO/NGO、日本語教育機関関係者、日本語ボランティア、在住外国人等）と共有する		
	内容	団体紹介、日本語事業概要報告、 通信講座の成果と課題、意見交換		
	対象	行政・地域日本語教育関係者		
	時間	1 回　3 時間		
	人数	18 人		
連携体制	三重県内のスペイン語圏コミュニティーと教材作成企業と連携し、教材を開発・実施した。成果報告では近隣の日本語教育関係者にも成果報告を行ったところ、他地域でも同事業を実施したいとの反応が多数あり、今後連携して学習機会の拡充に努めたい。			
成果と課題	受講者21名中20名がコース全課程を修了。また、コース開始前後において修了者全員が日本語力を向上させることができた。通信講座という初めての試みにおいて、継続的な教室参加が困難な人に学習機会を提供できたこと、それに必要な教材開発や指導体制の構築、そして成果・課題の共有ができたことから、今後さらに本事業を継続発展することが可能であるという手応えを得たことが最大の成果と考える。			
皆様へ一言	だれにとっても「最高の学習方法」といえるものは、あるのでしょうか。もしあるとしたら、それはだれもがアクセス可能なものでしょうか。残念ながら、今、わたしたちの周りにはそれがありません。どうか、多様なニーズに応じた、多様な学習機会や方法、ツールの開発にご理解とご協力をお願いいたします。			